

第2期 (R7) 第4回 地域・実践分科会

2026年3月13日

事務局

- 1 第2期の振り返り**
- 2 本日のディスカッションのポイント**
- 3 意見交換**
- 4 閉会**

第2期の振り返り

第2期地域・実践分科会 年間計画

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4-6月

	第1回 (10/16)	第2回 (12/2)	フィールドワーク (2/12-13)	第3回 (2/24)	第4回 (3/13)
テーマ	第2期キックオフ	事例を通じた議論 ① ・デットの活用 ・地域エコシステムの構築	・デットの活用 ・エクイティの活用 ・地域エコシステムの構築	事例を通じた議論 ② ・エクイティの活用 ・地域エコシステムの構築	第2期の総括
主担当	全員 ・司会・資料：事務局 ・挨拶：座長・副座長 ・意見交換モデレーター	金融トラック ・担当DM 三井住友信託銀行、 JANPIA、肥後銀行、 京都信用金庫	全員	事業トラック ・担当DM 商工会議所、UNERI、 Zebras and Company、 UntroD、うむさんラボ ベータ・ベンチャーキャピタル	全員 ・総括・進行：金融トラック
アジェンダ	○キックオフ ・挨拶・紹介 (座長・副座長・DM) ・第1期振り返り ○第2期方針の共有 ・年間計画 ・成果物イメージ ・多様なファイナンス手法 の紹介 ・意見交換	○事例検討 ・ファイナンス手法 ・地域金融機関において取り 得るアプローチ ・成功・課題要素 ○成果物に関する意見交換 ・全体構成 ・選定事例	○企業ヒアリング・意見交換 ・地域の課題・現状 ・ファイナンス手法 ・地域金融機関において取り 得るアプローチ ・連携のポイントと各者の役割 ・成功・課題要素	○事例検討 ・ファイナンス手法 ・連携のポイントと各者の役割 ・成功・課題要素 ○成果物に関する意見交換 ・活用方法 (マップ) ・事例紹介方法	○第2期分科会の総括 ・1～3回分科会、フィールド ワークの振り返り ・得られた成果と課題 ○成果物に関する意見交換 ○成果物活用に向けた意 見交換
目的 (着地)	・第2期メンバー顔合わせ ・第2期方針の確認 ・年間計画の方向性決定 ・多様なファイナンス手法に 関する認識のすり合わせ	・事例検討を通じた多様な ファイナンス手法の洗い出しと 横展開の可能性検討 ・成果物構成案のブラッシュ アップ	・企業ヒアリングを通じた多様 な事例の把握と横展開の可 能性検討 ・インパクトコンソーシアムの取 組周知によるすそ野拡大	・事例検討を通じた多様なファ イナンス手法の洗い出しと横展 開の可能性検討 ・成果物内容のブラッシュアップ	・第2期分科会の議論を通じ て得られた成果と課題の整 理 ・成果物方向性の確認

成果物の作成・確認・完成

【前程の確認】 地域におけるインパクトファイナンスの課題感

なぜ(Why)インパクトが有用か

→ 意義の理解そのものはクリアしやすい

- 地域経済の持続を目的として、リスク勘案の上で、地域にポジティブな影響をもたらす意図を持ってファイナンスを意義を理解
- インパクトというレンズを通じて、多様な価値を再評価・再発見し、行動変容

自治体

資金の
出し手

中間
支援組織

事業
会社

住民

地場
大手企業

- 地域における課題解決の価値を、インパクトの考え方を通じて説得力ある方法で資金の出し手を含むステークホルダーに共有できる

実践(How)における課題

→ 実践面では、様々な組み合わせが存在することを理解してアプローチする必要がある

資金の出し手

銀行

信用金庫

VC

PEファンド

国

自治体

事業会社 (CVC)

etc.

- 実際の資金の出し手は、各機関毎に固有のリスク許容度とファイナンス手法を保有しており、**一機関であらゆるファイナンスに対応することは不可能**
- VCは首都圏に集中しており、事業者の目指す規模の目線が投資スコープに合わない等の理由で都市部以上に**リスクマネーの供給が限定的**
- 地域企業に単に資金を供給するだけでなく、**経営支援とより効果的なエンゲージメントのノウハウ**を持って初めて地域課題の解決にまで到達する

- 経験に基づくそれなりの理屈があってもまだ非常にリスクが高いフェーズの企業において、デットによる調達を超えられない
- 企業によって状況が異なる中で、自社が誰から・どのようなファイナンスを受けるのが適切であるかを判別できない

事業会社

A企業

B企業

C企業

D企業

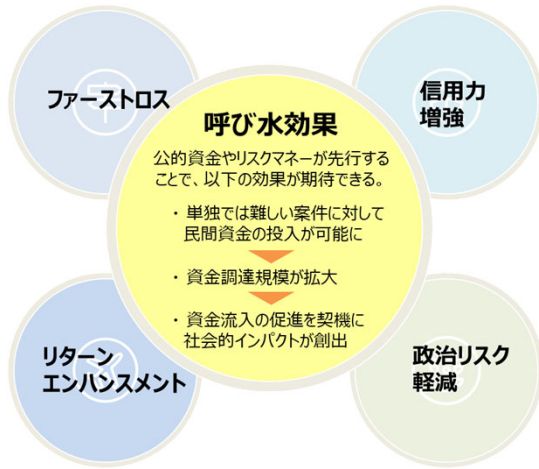
etc.

分科会・フィールドワークから得られた示唆

- 様々な資金の出し手が面となりアプローチすることでインパクトを創出する事例について議論し、多大なる示唆を得ることができた

第2回での議論

ブレンデッドファイナンス

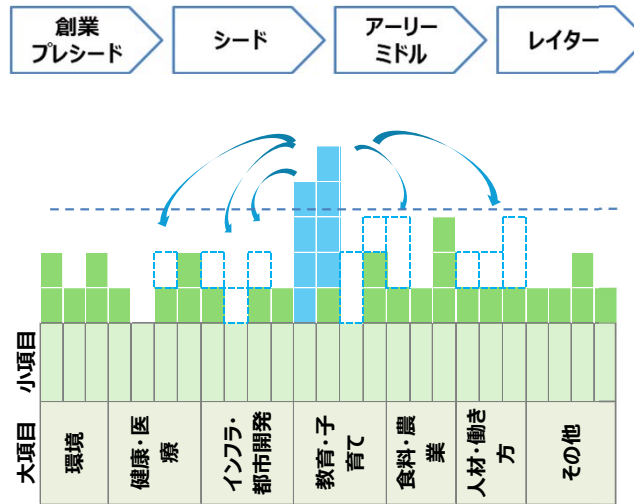


得られた示唆

- ✓ 公的資金やリスク許容度の高い資金と民間資金を組み合わせ、民間金融が適切なリスク・リターでインパクト創出に参入できるようにする広義の「ブレンデッドファイナンス」について事例を採り上げ議論
- ✓ 個別の手法を点として提示するのではなく、課題の段階や展開に応じて組み合わせ、連動させて活用できるよう、全体を「セット」として設計する視点の重要性を整理

第3回での議論

ギャップと束

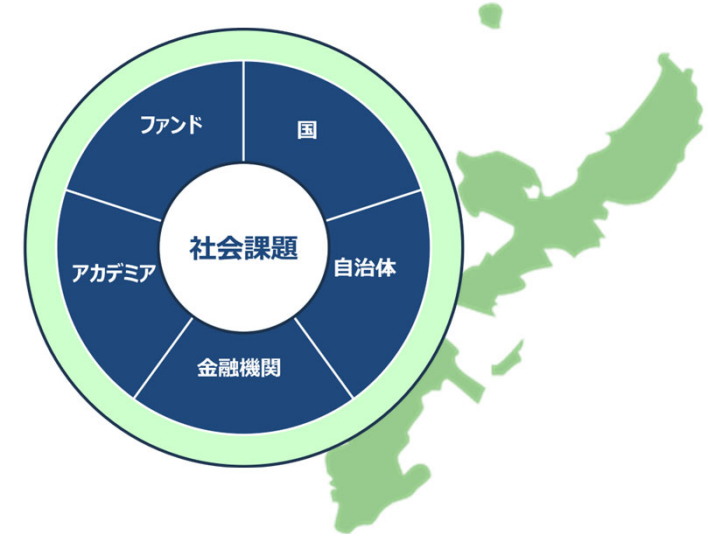


得られた示唆

- ✓ 地域の課題構造を踏まえてインパクトファイナンスを検討するプロセスがなぜ有用であるかについて、具体的な事例を交えて共通理解を醸成
- ✓ 成長ステージ毎に存在する資金供給ギャップと、資金の出し手が地域内で連続的に連携することによりギャップの解消が図られている構造を分析

沖縄フィールドワーク

地域エコシステムの構築



得られた示唆

- ✓ 分科会にて議論されてきた資金の出し手の面的なアプローチについて、沖縄地域において構築されている様々なステークホルダーの先進的な取組現場を視察することでその解像度を高めることができた
- ✓ 地域特有の課題に対して、地域がエコシステムレベルで有機的に連携している実例を体感することを通して、横展開に向けた気づきを得られた

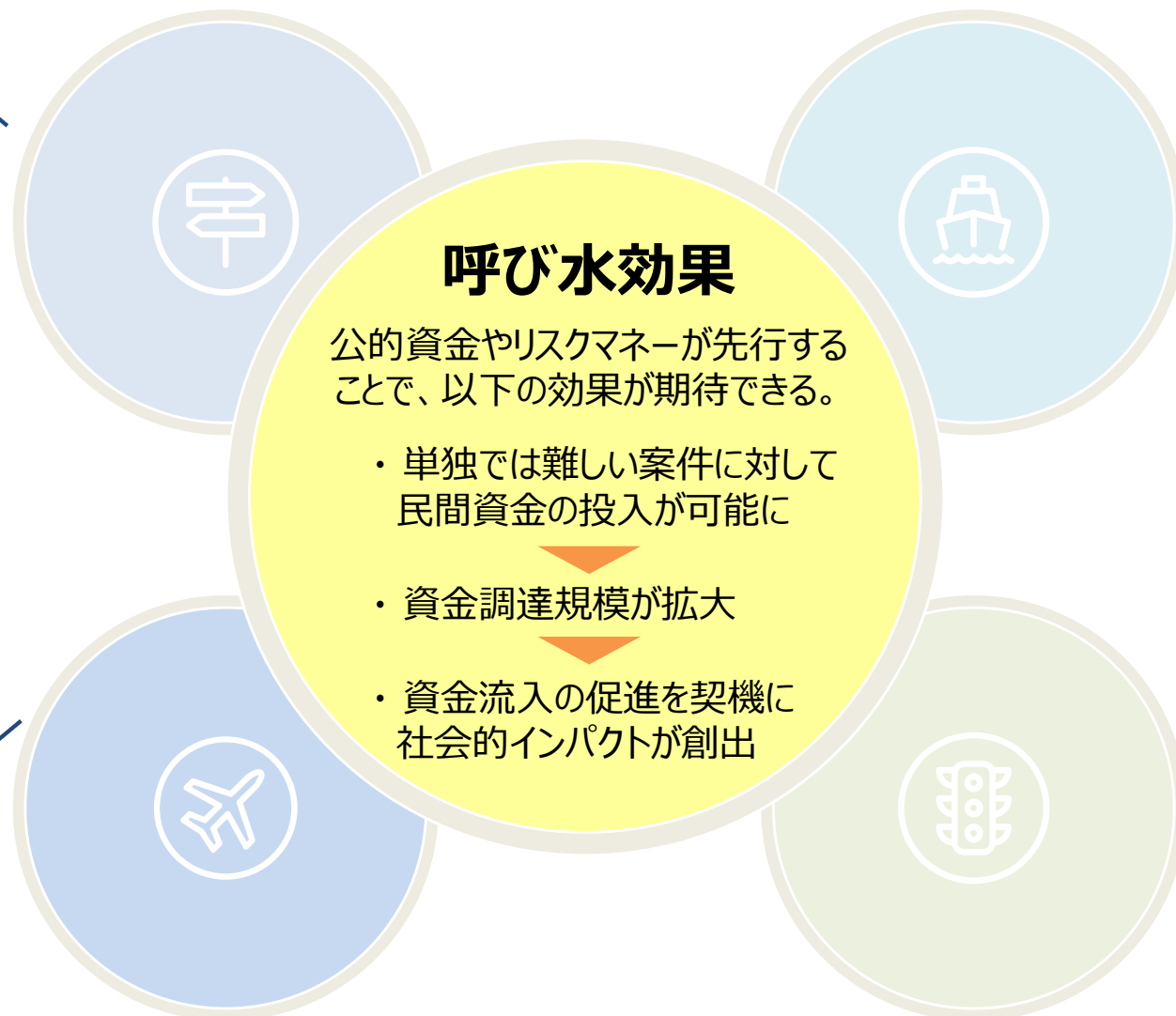
ブレンデッドファイナンスの主な効果

ファーストロス

公的資金が初期損失を優先的に負担し、民間金融の損失リスクを軽減。これにより投資参入のハードルを下げ、資金流入を促進

リターンエンハンスメント

公的資金が低利等の譲許的なファイナンスを提供することで収益を補強し、民間金融がリスクに見合う収益性を確保し、ファイナンス意義が向上



信用力増強

影響力・目利き力・認知度等のある外部資金が入ることで、民間資金の呼び込みを容易に

政治リスク軽減

国際機関や政府の関与により、政策変更や資産没収などの政治リスクを緩和。長期投資の安定性を確保し、安心感を提供

事例集における分類

本分科会においては、様々な手法を共有する観点から“広義”のブレンデッドファイナンスについて以下のとおり分類し、それぞれ「**呼び水型の資金連携事例**」を紹介する。

政策金融

公益性が高いものの、リスク評価が困難な場合や、深いリスクテイクをすることが必要な場合に融資や投資等の金融的手法により目的を達成する政策手段

事例①：ソーシャルビジネス支援資金（JFC）

事例②：資本性ローン（JFC）

事例③：ソーシャルインパクトボンド（DBJ）

官民ファンド （国・自治体）

国や自治体と民間が、地域活性化等、特定の目的を達成するために、共同で設立し出資を行うファンド

事例④：リアルテックファンド（JIC）

事例⑤：SIIFICウェルネスファンド（中小機構）

休眠預金活用

休眠預金の活用により行政が対応困難な社会課題の解決と民間公益活動の自立した担い手の育成を図る事業

事例⑥：劣後出資（JANPIA）

ふるさと納税・ クラウドファンディング

社会課題に資する資金を金融機関以外の資金から供給する手段を広範に捉え、ふるさと納税・クラウドファンディングの活用についても紹介

事例⑦：ふるさと納税活用推進の取組

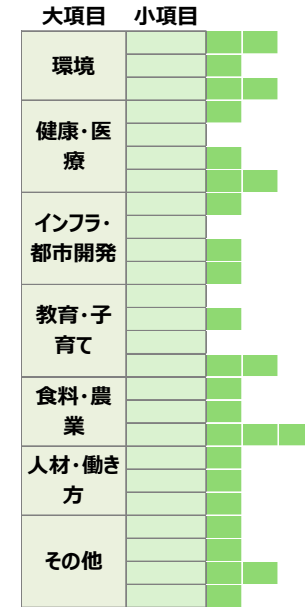
第3回分科会の振り返り ～地域の課題構造を捉えてインパクトファイナンスを実施する意義～

個別企業ごとにインパクトファイナンスを検討するプロセス



- ✓ 個社のポジティブインパクト(PI)・ネガティブインパクト(NI)の検討が出発点となる
- ✓ 企業の重要課題の分析が主となり、排出量や企業内の雇用・福利厚生等、対象インパクトは本業外の項目が多い。企業の持続可能性は向上が見込まれるが、検討プロセス上、地域の重要課題の分析を実施する構造になっていない
- ✓ 一社一社へのファイナンスはインパクト増減の意図を持って行われるが、対象は分散的。多数の中小企業にPIFを実行しても地域全体に与えるインパクトという観点では限界がある

創出インパクト (イメージ)



地域のコア課題を捉えた取組になりにくく、領域が分散

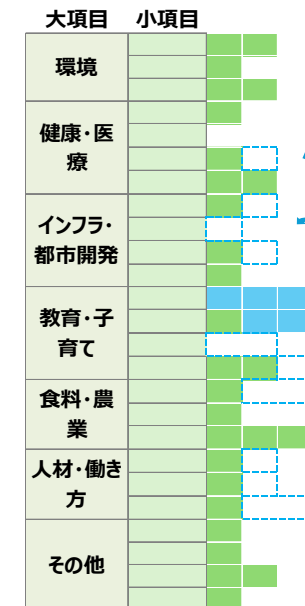
地域の課題構造を踏まえてインパクトファイナンスを検討するプロセス



地域内の複雑な因果関係の分析が必要となるためKPIの策定含めロジックモデルの整理には時間・労力を要するが、

- ✓ 地域社会のコア課題の分析が出発点となり、地域のコア課題の解決に向けた差分(インパクト)を中心に検討するため、長期的に地域全体に与えるインパクトが大きい
- ✓ 整理されたロジックモデルが活用され、複数企業への金融支援及び非金融支援を明確な意図を持って統一的に検討することができる
- ✓ ファイナンス領域を特定していても、対象課題解決企業が地域に存在しないケースがあるため、自治体、中間支援機関、金融機関の連携による非金融の取組の重要性が高い

創出インパクト (イメージ)



意図を持った金融・非金融の取組により有意なインパクト創出

コア課題の改善により派生的に他課題へのインパクトも発生

第3回分科会の振り返り ～各事例から得られるギャップ・束の示唆～

- 各事例について、どのような「束」の取組としているのか、ギャップをどのように埋めているのかを整理

機関名	支援する段階	取組を「束」にするポイント
<p>1 (株)静岡銀行</p>	<p>課題に直面する既存産業に対し、構造転換に必要な金融・非金融両面での支援を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域課題を俯瞰的に分析し、レバレッジポイントと関係するステークホルダーの役割を特定し働きかけることで地域重要課題の解決に結びつける
<p>2 西日本旅客鉄道(株) (JR西日本)</p>	<p>「ローカルIPO」での出資に参画、地域金融機関等からの調達の呼び水となるファイナンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 外部資金を拠出した地域のステークホルダーのエグジット時における架け橋的な役割を果たす ✓ 「ファイナンス」と「人財」両面で中間支援の役割を担う
<p>3 Tech Startup HOKURIKU (TeSH)</p>	<p>創業・プレシード段階の資金の出し手不在の問題を解消し、地域のスタートアップ企業創出件数拡大を支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国、自治体、海外VC、地域中核企業、地銀等、様々なステークホルダーと連携して創業・プレシード後の成長を見据えた支援を設計
<p>4 (株)D2 Garage</p>	<p>創業～シード段階のSU創出・資金調達を様々な金融支援・非金融支援により支え、地域のスタートアップ企業の創出・拡大に貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治体連携、産官学連携、アクセラレータープログラム等、スタートアップエコシステムの構築に関わる多様なプロジェクトを企画・運営

第2期の振り返り ～沖縄フィールドワーク～

沖縄フィールドワークの振り返り

Day1 2/12 (木)

- 11:30 ● 集合@琉球大学→琉球大学視察 **視察①**
- 12:20 ● 結団式@STARTUP LAB RYUDAI [琉ラボ]
- 13:00 ● 登壇セクション
@STARTUP LAB RYUDAI [琉ラボ]
 - おきなわスタートアップ
エコシステムコンソーシアム **登壇①**
 - 沖縄振興開発金融公庫 **登壇②**
 - 株式会社琉球銀行 **登壇③**
 - 内閣府沖縄総合事務局 **登壇④**
 - フォーシーズ株式会社 **登壇⑤**
- 17:30 ● 移動 (琉ラボ→那覇市)
- 19:30 ● ネットワーキング

Day2 2/13 (金)

- 9:40 ● 登壇セクション@沖縄自治会館
 - 株式会社うむさんラボ **登壇⑥**
 - 沖縄県 **登壇⑦**
- 11:20 ● 移動 (沖縄自治会館→OIST)
- 13:30 ● 沖縄科学技術大学院大学(OIST)ツアー **視察②**
- 15:40 ● 移動 (OIST→那覇市)
- 16:40 ● 解散



沖縄フィールドワークの振り返り

社会課題解決のため、各ステークホルダーが協調し、エコシステムを構築していました。

沖縄における社会課題を取り巻くステークホルダーとその特徴

登壇⑤ フォーシーズ株式会社

沖縄に拠点を作るスタートアップと地場との接続を実施。沖縄の持つべき役割や機能を体現し、東アジアのハブとなることを目指す。

登壇⑥ 株式会社うむさんラボ

多様な主体をつなぎ、共通の方向性を示しながら継続的に取り組みを推進するキーパーソンが存在。

視察① 琉球大学

研究領域の企業・社会実装化支援や、起業家人材の育成・創出を実施。

視察② OIST

ハイトラスト・ファンディング等のユニークな制度設計。技術支援や産学連携を織り込みPoCプログラム等を通じて研究から事業化まで支援。

登壇② 沖縄振興開発金融公庫

本土で複数機関が担う機能を一元化し、ワンストップで提供。創業期から成長段階に至るまでの長期的視点で資金供給・非金融支援・ソーシャル融資を実施。

登壇① おきなわスタートアップ エコシステムコンソーシアム

産学官金をまたぎ、さらに、県外からの参加者も多く受け入れ、地域内に閉じない開かれたエコシステムを構築。

登壇④ 内閣府 沖縄総合事務局

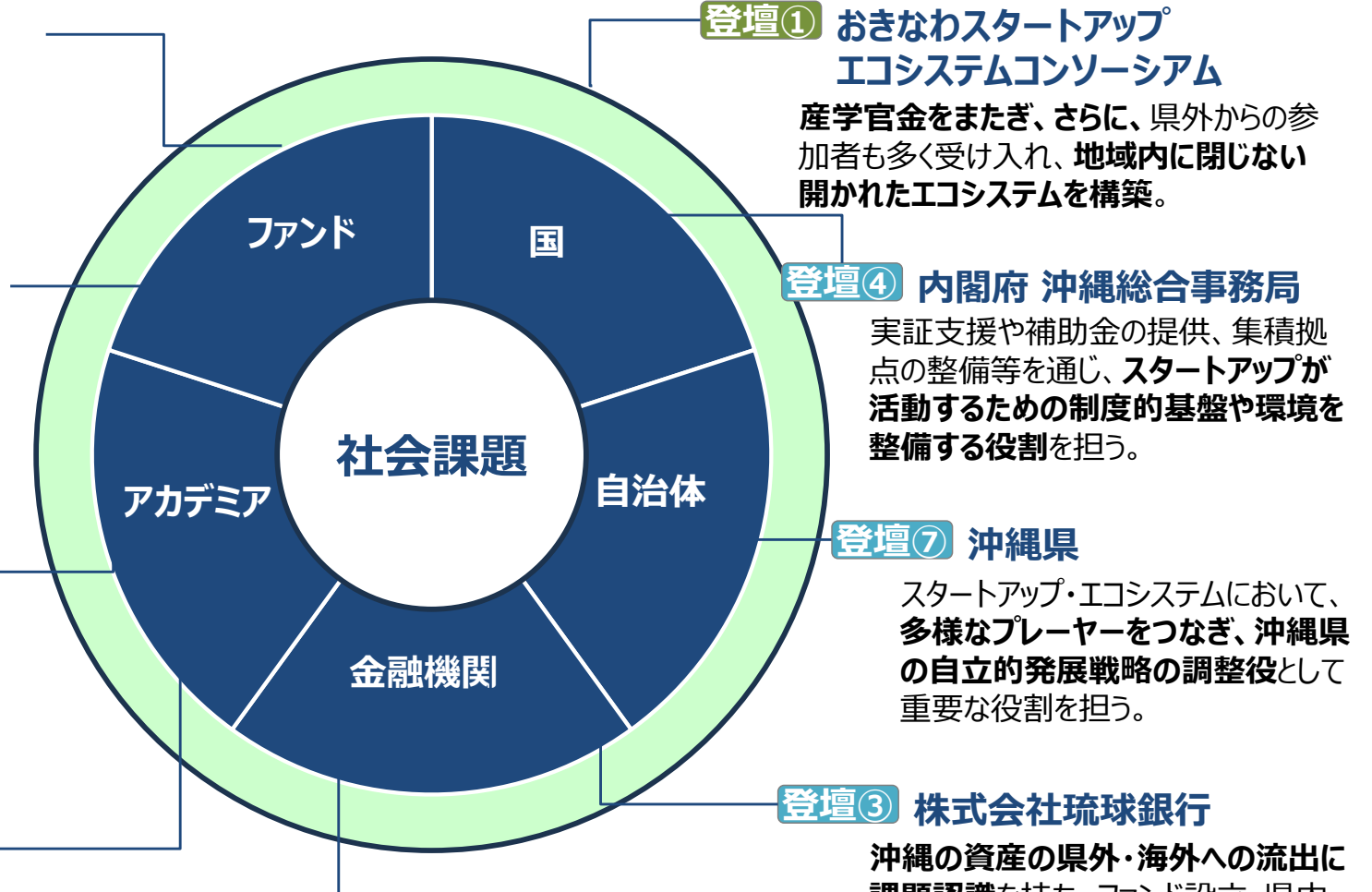
実証支援や補助金の提供、集積拠点の整備等を通じ、スタートアップが活動するための制度的基盤や環境を整備する役割を担う。

登壇⑦ 沖縄県

スタートアップ・エコシステムにおいて、多様なプレーヤーをつなぎ、沖縄県の自立的発展戦略の調整役として重要な役割を担う。

登壇③ 株式会社琉球銀行

沖縄の資産の県外・海外への流出に課題認識を持ち、ファンド設立・県内資産の買い戻しを行い、県内企業・個人へエグジットして還流させる等の取組みを実施。



沖縄フィールドワークの振り返り

フィールドワーク翌日の2026年2月14日、ミチシルベとのコラボレートセッションを開催



地域と育つファイナンスの未来

地域とともに育つ金融 ～沖縄がめざす金融共創のかたち～

開催日 2月14日

時間 12:00-13:00

会場 沖縄国際大学

2月14日

Resonance Day

セッション

本日のディスカッションのポイント

事例集（第2期成果物）の実践的な活用に向けた議論

地域起点の
ファイナンス手法
とは

デットファイナンス

返済義務と利息を伴って
資金を借りる手法

エクイティファイナンス

株式や持分を渡して
返済不要の資金を得る手法

ブレンデッド・ファイナンス

目的や資金源に応じて複数の
資金手法を組み合わせる考え方

各協会や日銀が公開しているレポート
など最新記事・情報を幅広く収集

事例調査・整理

【地域のインパクトファイナンスに係る課題の理解】

- 単一機関で多様なファイナンスの実践は不可能
- 都市部に比べ、地域のリスクマネー供給が限定的
- 経営支援とより効果的なエンゲージメントを実施するためのノウハウが不足

【事例集概要】

- 様々な社会課題やファイナンス手法の軸において、多様なユースケースの全体像を整理
- インパクト投資の基本的要素を踏まえた全国の事例を調査し、資金の出し手、資金の受け手ともに参考となる個別事例集を作成

ねらい（案）

- 目的としてメッセージを経営層にしっかりと発信することとし、事例集活用のターゲットは本部企画部門並びに実務者の支店長、部長、および課長向けとして金融機関内のコミュニケーションとして使ってもらおう想定
- ファイナンス手法を認知してもらい、資金の出し手の間での連携もあるとよい。最初に何を指すのか示し、多様なファイナンス手法を使用するモデルケースを載せてこうなっていくといいという姿を示す

マッピングの軸

社会課題

各分科会に合わせる方針として、データ分科会で使用している分類を適用

ファイナンス手法

5つの事項を考慮し、インパクト投資における主なファイナンス手法を選定

- 投資家のリスク許容度・リターンへの期待
- インパクト測定・管理体制の整備
- 期待する社会的・環境的インパクトの種類や規模
- 投資先の成長段階
- 投資期間、資金規模、資金の柔軟性、規制・法制度など、その他の要素

企業の成長段階

シード・アーリー・ミドル・レイター・その他に分類

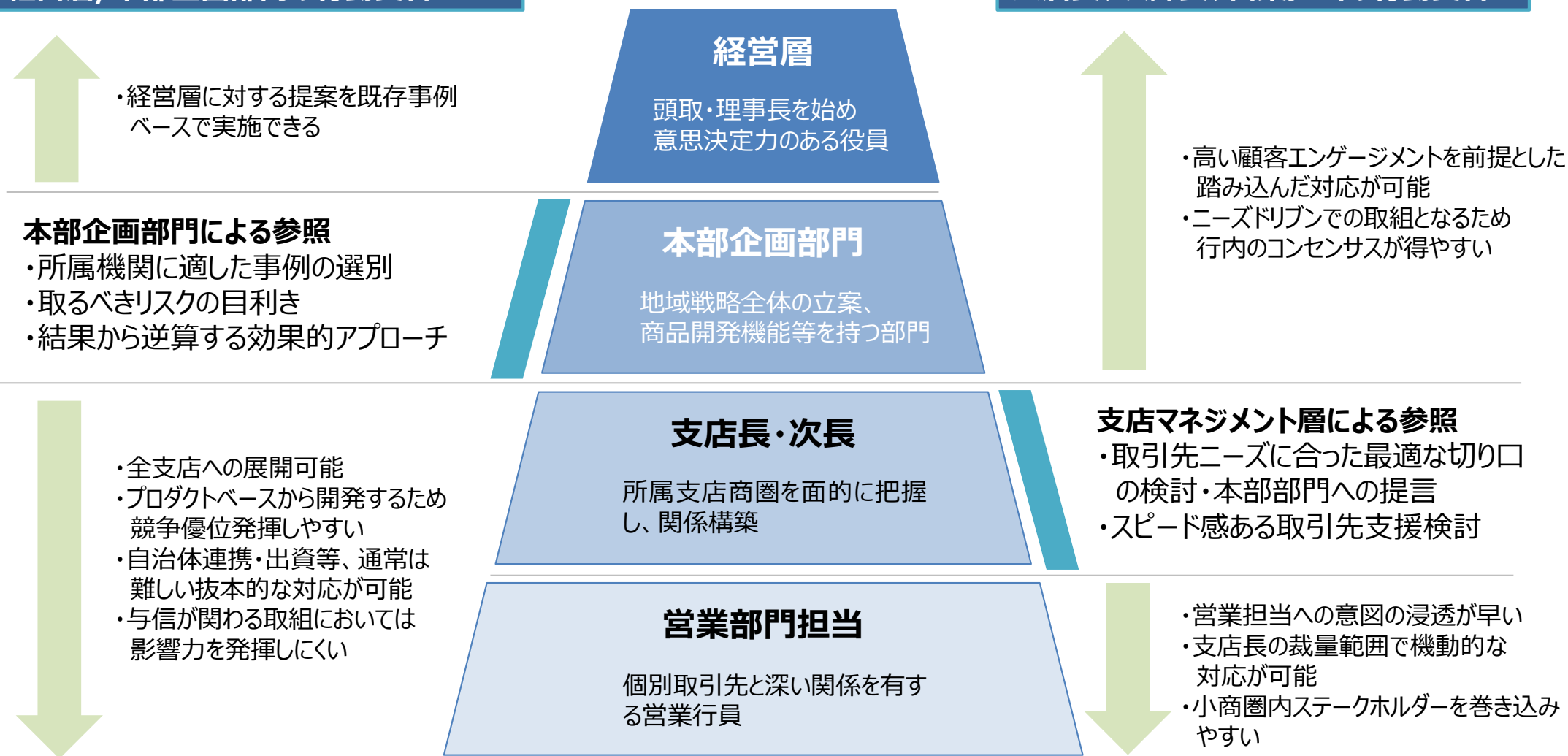
事例集の想定読者

● 本事例集の地域金融機関における活用については、以下の場面での活用を意識

- ① 本部企画部門(部門役員含む)による参照を通じた経営層の説得と支店への展開場面での活用
- ② 支店マネジメント層による参照を通じた支店での実践、並びに本部企画部門へのフィードバック

経営層/本部企画部門の行動変容

支店長、次課長、営業担当の行動変容



事例の全体像（マッピング）

事例マップ① 社会課題×ファイナンス手法

凡例 シード アーリー ミドル レイター その他・すべて

	デット			エクイティ		ブレンデッド	その他
	融資	成果連動融資	債券	直接出資	ファンド出資		
環境 (気候変動・環境保全 ・生物多様性)	3 5 6 13 18	14 15 20	16	25	2 27 30 34		69
健康・医療			22 36	78	24	44	
インフラ整備・都市開発	4			10	19 23 31 41 65 71 76	21 43 48 49	58 67 70
教育・子育て	75		35		62		60
食料・農業	42 73		77			40	
人材・働き方	1 7 8 11				12 16 38 39	50	28 32
その他	63 66 74			60	61 64 68	29 33 45 46 47	9 17 72 79 80 81 82

事例の全体像 (マッピング)

事例マップ② 社会課題×企業の成長段階

※企業の成長段階は資金の受け手として整理

凡例 デット エクイティ ブレンデッド
ファイナンス その他

	シード 創業準備を行う初期段階		アーリー 試験的な市場投入やビジネス モデルの検証を行う段階		ミドル 本格的な事業拡大に着手し、 成長を加速させる段階		レイター 事業基盤が確立、安定的売上 や利益を確保する段階		その他 (自治体、NPO等)		全て (成長段階の制限なし)	
	環境 (気候変動・環境保全 ・生物多様性)				30 69	3 25 27		2 5 18 20		6		13 14 15
健康・医療		44			78		21 30		22			
インフラ整備・都市開発	19 49	65 71	10 23 76	48	31		41 70		4 58 67			21 43
教育・子育て		62			35		75					
食料・農業			40 42				73 77					
人材・働き方	38		8 11 12	28 32			39		7 50			1
その他	80 81 82	46 47 63 68	45		74	64			17 33 60	66 72 79	61	9 29

事例集の内容と活用 ～ディスカッションメンバー会における意見～

キーワード

意見概要

論点

1 全体

資金循環構造図
(地域エコシステム図)

- 個別事例の資金循環を表したスキーム図だけでなく、地域における**多様なステークホルダー（産学官金）の連携状況や非財務面での動き（伴走支援等）**も含めた**地域全体のエコシステムを見える化した図**があると、地域におけるインパクトファイナンスへの解像度が高まり、**事例集の活用イメージが沸く**のではないかと。
- 地域課題の解決に向け、多くの人を巻き込んでいくためには、**誰がリーダーシップを取ったか**が可視化されるとよい。

- 好事例を1つ選び具体的なエコシステム図を作成するか
- 複数の好事例に共通する要素を目指す姿として集約・一般化する方が適当か

2 全体

フローチャート

- 読み手が**事例集を効果的に活用**できるよう、読み手の**目的やインパクトファイナンスに関する理解度**に合わせて適切なページに辿り着けるフローチャートを作成・掲載してはどうか。

- 経営層が組織の在り方や方向性の検討に役立てるイメージか
- 現場担当者が個別具体事例に対応する際に活用するイメージか

3 事例

リスク・リターンの可視化
・
リスクの取り方

- 事例紹介ページにおいて、出し手が最も知りたい情報である**「リスク」と「リターン」をいかに可視化するか**が重要。
- 更に、どのようにリスク評価してリスクテイクしたのか、といった**リスクの取り方のポイント**まで言及できれば、資金の出し手固有の状況に関わらず、**横展開が可能になる**のではないかと。

- 個別事例のリスク・リターンをどのように分析・掲載するか
- リスクの取り方のポイントをどのように導き出すか

4 活用促進

他施策との連携
・
広報・周知活動

- 資金の出し手が注目する他施策（ex.地域金融力強化プラン、企業価値担保権等）について、事例集の中で触れることによって認知度向上を図ることができるのではないかと。
- 事例集を通じたインパクトファイナンスの推進に向け、**実際に様々な地域で事例集の活用を呼び掛ける機会**を設けてはどうか。

- 他施策の内容や関係性を十分確認したうえで掲載を検討する必要あり
- 活用促進に向けた効果的な広報や具体的取組としてどのようなものが考えられるか

End of File